

# R7008SB 双方向通信対応 / FASSTest-2.4GHz 方式 S.BUS2 対応 / 8 チャンネル + S.BUS 受信機

1M23N17460

この度は FASSTest-2.4GHz システム対応受信機 R7008SB をお買上げいただきまして誠にありがとうございます。この R7008SB には S.BUS システム用の出力ポート、S.BUS2 システム用の入出力ポート及び、従来システム用のチャンネル出力 (CH1-8) が搭載されています。S.BUS2 システム対応のセンサー等と S.BUS システム対応のサーボやジャイロ、従来システムのサーボ等を併用することが可能です。

●この R7008SB は Futaba 製 FASSTest システムの送信機に対応します。

## 使用上の注意

※ 12CH モード使用時は従来システム用の 1-8CH 出力にはアナログサーボは使用できません。

※ FASSTest システムは従来の FASST システムとの互換性はありません。FASSTest システムに対応した送信機と組み合わせてご使用ください。

※ 受信機の電源を入れる前に、外部電圧測定入力ポートに電圧がかからないようにしてください。

### 警告

受信機を搭載する際は、スポンジで包むなど防振対策をする。また、水分がかからないようにする。

■受信機は振動、水分に弱く故障する危険性があります。

コネクターがショートしないように導電帯からは、離して搭載する。

■ショートすると破損します。

使用前の動作テストや使用中に正常に動作しない場合は使用を中止する。

■他の 2.4GHz システム等からのノイズにより電波が届かなくなる場合があります。

## アンテナ搭載時の注意

### 警告

2つのアンテナ(先端 30mm) がお互いに 90 度の位置関係になるように搭載する。

■ R7008SB は 2 つの異なる位置で信号を受信できるように、2 つのアンテナが装備されています (ダイバーシティアンテナ)。2 つのアンテナを自動的に切替えて常に安定した受信状態を確保しています。

アンテナをカットしたり折り曲げたりしない。■受信距離が短くなり操作不能になります。

アンテナを引っ張らない。■断線し操作不能になる危険性があります。

アンテナはサーボ、モーター、バッテリーおよびそれらの配線から少なくとも 1.5cm 以上離して搭載する。

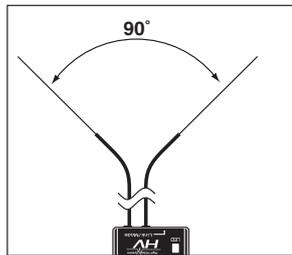
■受信距離が短くなり操作不能になります。

## カーボン胴体機に使用時の注意

### 警告

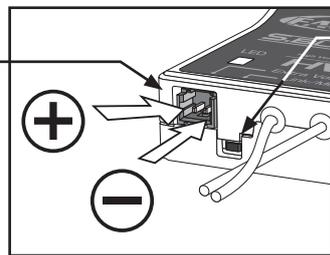
アンテナ部分(先端 30mm) は完全に機体の外側に出すこと。■外側に出したアンテナ部がフライト中に風圧等で機体内部に戻らないよう注意してください。アンテナがカーボン胴体内にあると受信状況が悪化し操作不能になります。

(アンテナ搭載角度)



## 外部電圧測定入力ポート

オプションの外部電圧入力ケーブルを使用し外部電源 (例えば動力用バッテリー) に接続します。そのバッテリーの電圧を送信機に表示できます。



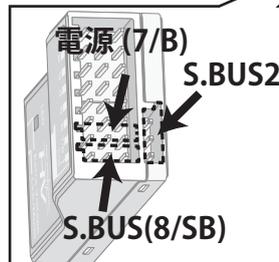
## Link/Mode スイッチ

## Link/Mode スイッチ

CH 出力モード切替に使用します。※送信機とのリンクには使用しません

## アンテナ

## R7008SB



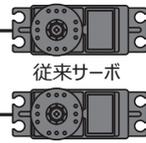
LED 電源は 7/B へ

従来 CH ポート (CH1 ~ 8)

S.BUS ポート (8/SB)

S.BUS2 ポート (S.BUS2)

中継ボックス



S.BUS 対応サーボ S.BUS 対応ジャイロ

三又ハブ

温度センサー

温度センサー

温度センサー

回転センサー

高度センサー

高度センサー

S.BUS2 対応機器

## 受信機 LED 表示

緑色	赤色	状態
消灯	点灯	無信号時
点灯	消灯	通常動作時
交互点滅		受信機内部の異常 (メモリー等) 電源再投入で回復できない場合は弊社カスタマーサービスセンターへ点検・修理依頼してください。

## [R7008SB 受信機仕様]

FASSTest-2.4GHz 方式 (18CH/12CH モード)、S.BUS2 入出力 / S.BUS 出力 + 従来システム用出力 (CH1-8)

- ・アンテナ: ダイバーシティ方式
- ・サイズ/重量: 24.9x47.3x14.3mm / 10.9g
- ・定格電圧: 3.7 ~ 7.4V (使用可能電圧範囲 3.5 ~ 8.4V)
- ・バッテリー F/S 電圧: 送信機から設定
- ・外部電圧ポート: 0 ~ 70V DC (電圧監視用)

※ BEC 電源を使用する場合、容量がご使用のサーボ等の条件に合っていることが必要です。また、乾電池は使用しないでください。誤動作の原因となります。

## S.BUS2 について

S.BUS2 は従来の S.BUS を拡張し、センサー等から受信機への双方向通信をサポートしたシステムです。センサー等は S.BUS2 コネクターに接続して使用します。

※ S.BUS 対応のサーボやジャイロは S.BUS2 のコネクター端子では使用できません。S.BUS 対応のサーボやジャイロは CH 出力モードを切替えて (裏面参照) 8/SB コネクター端子部で使用します。

## リンクについて

FASSTestのリンク方法は、従来システムから使いやすさを向上した、リンクボタンを使用せずにリンクが出来るシステムです。

## リンクの方法

1. 送信機と受信機を近づけ、送信機を(※)リンクモードにした状態で受信機の電源を入れてください。
2. 受信機の電源を投入してから、約2秒後にリンク待ち状態となります。
3. LEDが赤色の点滅から緑色点灯に変化すれば、リンク完了です。(リンク待ち状態は約1秒間で終了します。)

※送信機をリンクモードにする方法についてはご使用の送信機の取扱説明書をご覧ください。

※リンク操作時に、周囲で他のFASSTest-2.4GHzシステムが使用されている場合、それらの送信機のうち1台とリンクしてしまう場合があります。このためリンク操作が完了したら、必ず動作を確認してください。

※リンクされた送信機の電源を入れた場合はそのまま通信を開始します。

※送信機の通信モードを変更した場合、例えば18CHモードから12CHモードへ変更した場合などは通信できません。再度リンク設定を行ってください。

## 警告

⊘ リンク操作時は動力用モーターが接続された状態やエンジンがかかった状態では行わない。

■ 不意にモーターが回転したり、エンジンが吹け上がったりと大変危険です。

ⓘ リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源を入れ直し、リンクした送信機で操作ができることを確認する。

## 注意

ⓘ リンク完了後は必ず送信機から電源を入れる。

ⓘ 送信機とのペアを組みかえる場合は、以前にリンクしていた送信機の電波を出さない。

## CH 出力モード

R7008SBはCH8の出力をS.BUS出力に切替えることができます。また、1～8CHの出力を9～16CHの出力に切替えることができます。

## CH 出力モードの切替え方法

1. Link/Modeスイッチを押した状態で受信機の電源をONしてください。LEDが赤緑同時点滅したらLink/Modeスイッチを離します。
2. Link/Modeスイッチを押すごとに下記の4モードが順に切り替わります。(赤色LED点滅回数でモードを表示します)
3. 目的のモードに切り替わったらLink/Modeスイッチを長押し(2秒以上)して下さい。LEDが赤緑の同時点滅となったら、モード切替完了です。Link/Modeスイッチを離してください。
4. 動作モード切替が完了したら、電源を入れなおして下さい。

受信機CH出力モード一覧表

出力コネクター	設定チャンネル			
	モードA 1～8CH	モードB 1～7CH	モードC 9～16CH	モードD 9～15CH
1	1	1	9	9
2	2	2	10	10
3	3	3	11	11
4	4	4	12	12
5	5	5	13	13
6	6	6	14	14
7/B	7	7	15	15
8/SB	8	S.BUS	16	S.BUS
赤色LED点滅回数	1回	2回	3回	4回

## FASSTestについて

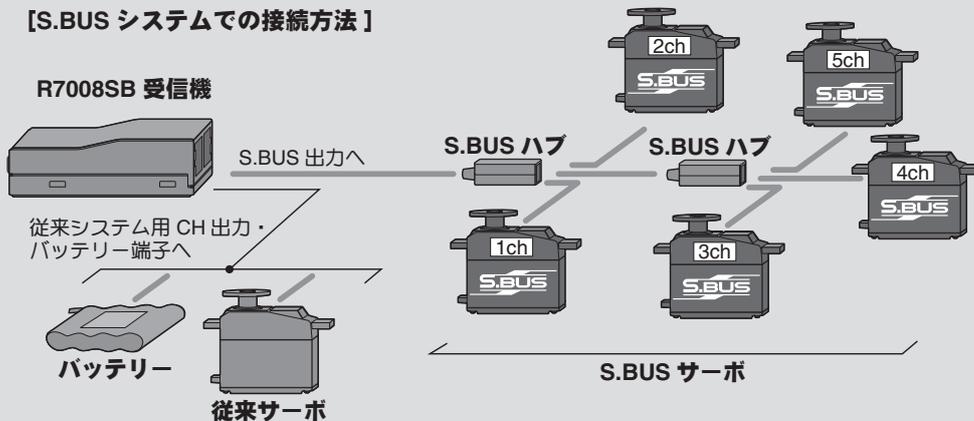
FASSTestは双方向通信システムです。受信機のバッテリー電圧情報や、外部電圧ポートに接続した電圧の情報及び、受信機のS.BUS2ポートに接続されたセンサー(別売)情報を送信できます。センサー状態の表示を行うためには送信機での初期設定が必要となります。設定方法については、ご使用の送信機の取扱説明書をご覧ください。

## ● S.BUS システムについて

S.BUSシステムでは従来のラジコンシステムとは異なり、操作信号は受信機からサーボやジャイロなどのS.BUS対応機器へデータ通信により送信されます。

このデータには「チャンネル3のサーボが15度に、チャンネル5のサーボは30度に」といったように複数の機器への指示

### [S.BUSシステムでの接続方法]



## 警告

ⓘ S.BUS使用時は必ず送信機の電源をONにしてから受信機の電源をONにして、正常に操作できることを確認してからご使用ください。また、受信機電源がONの状態でもS.BUSサーボのコネクターを抜き差ししないでください。

■ S.BUS通信判定できずに誤動作します。

※ S.BUSサーボをS.BUS出力に接続する場合、チャンネル設定が必要です。この場合、チャンネル設定機器SBC-1またはS.BUSチャンネル設定ができる対応受信機を使用してS.BUSサーボにチャンネル設定します。例えば、S.BUSサーボにCH2を設定した場合、従来システム用出力のCH2と同じ動作となります。

※ R7008SB受信機の場合S.BUSサーボと従来のサーボとの併用も可能。ただし、S.BUS出力端子には従来サーボは接続できません。

※ S.BUSサーボを別電源で使用する場合は、S.BUS延長コード(2分岐/別電源用)を使用します。接続方法は延長コードに付属の取扱説明書をご参照ください。